



郷土史

ていね

第77号

平成26年5月14日  
手稲郷土史研究会会報

## 定期総会・懇親会開催

### ● 定期総会

4月16日には、定期総会と懇親会が行われました。

総会は、茂内義雄会長の挨拶のあと、平成25年度の事業報告、収支決算報告、平成26年度の事業計画、収支予算などの案件について審議され、可決されました。

審議された事項の詳細については、「定期総会議案書」をご覧ください。

議事に先立ちまして、特別功勞、ものしり博士の表彰が行われ、次の方々に賞状が授与されました。(敬称略)

特別功勞賞：西尾貞敏、野村武雄、川崎吉充、國井和夫、中山恒雄

ものしり博士：立花邦雄、高木秀子

### 茂内義雄会長挨拶

皆さん今晚は、今日は、まだ、春は遠いのかなという感じです。

私も会長を仰せ付かって3年目です。今日は、61名の会員の皆様とスタートできます。昨年は、前田農場駐輦記碑移設という、大きな事業を終えることができました。今年は、近々やって来るであろう、私たちの手稲郷土史研究会創立10周年に向けて、その準備段階に入ったように気がしております。事務局を中心に、研究部、広報部、そして総務部、この3部の連携を密にして、業務内容を精査しながら、充実発展させていきたいという気持ちでおります。そのために、今年度は役員の補充を大幅にお願いいたしました。

これからの話は、この会がこうであつたらいいなという会長のつぶやきとして、耳の片隅に入れておいてください。

私共のこの会は、間違いなく高齢者の集団です。どこを向いても、年寄りです。横文字で、シルバーとか、これも私たちにぴったりの言葉です。もう死語でしょうか？ かつての言葉にロートルというのがありました。昨日、たまたま平木さんと電話でおしゃべりをしておりましたら、平木さんが満州で、あの原野をかけめぐったとき、ロートルという言葉があつたと言われました。中国語なのですね。

余談になりましたけれども、いかに年をとつても、年寄りと言われようと、老人と言われようと、ここは、好きで好きで大好きな歴史の愛好者の集まりではなからうか、と私は思っております。先人達が頑張つてつくってくれたこの手稲。その歴史を、伝えるということは、老人だからこそできることではないでしょうか。この会が、沢山のひとがたに歴史の事象を伝える担い手でありたいという気持を持っています。

さいわい、この会は定年制はございません。足腰、体が利かなくなるまで、いや足腰利かなくても頭が大丈夫であつたら、このメンバーで楽しい会にしていければいいなあ！ と考えております。今日も、このあと、楽しい

一杯会が待っています。その前段の総会・議案書の審議の中では、こんな楽しいことが出ているんだなあ！ ということを真剣になって探してください。それ以外の事はあまり詮索しないでください。

はなはだ、乱暴な言葉になりましたけれども、今年一年間、皆様方と一緒に楽しい会にしていきたいという気持でありますので、ご協力ください。



### 次回の予定

次回(6月11日)は、元札幌市市民局長 三井尚氏の講演「百人一首が伝える平安王朝の恋・艶・雅の世界」と釣本峰雄氏の研究発表「いしかり夢物語」を予定しております。

会場は、視聴覚室です。

## ● 懇親会

### 手稲郷土史研究会副会長 一ノ宮博昭氏挨拶



この一年間大変なスピードで一年を過ごすことができました。シニアパワーとか老人パワーとか言われますが、正に若者に負けないような速度であったかと思われま。26年度も、この勢いで進みたいと思います。

本日は区役所から市民部長さんをはじめ、市民部地域振興課のかたがたにきていただいております。楽しく、賑やかにやりましょう。

### 手稲区市民部長 江島圭一氏挨拶

おぼんでございます。市民部長の江島でございます。今年はメンバーが一部変わりました。まちづくり推進係長木村を紹介いたします。よろしくお願いいたします。その他は変わりありません。

郷土史研究会の皆様には、手稲区・手稲町時代を含めて、歴史の継承、新たな掘り起こしということで、手稲区まちづくりのために大変ご尽力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

手稲区では、ふるさと手稲・歴史事業ということでいろいろやっております、そのなかで皆様には大変ご協力をいただいております。いくつか例を述べさせていただきますと、小学生を対象にしました、史跡めぐりツアー、これの案内役としてご協力いただいております。歴史のガイドマップの企画編集につきまして、大変ご協力いただきました。このガイドマップは、4月に区内の小学校4年生全員に配って、教材として使っていただいているところでございます。案内板の整備事業というのをやっております、予算の関係上、年間2、3基ではございますが、設置しております。この説明文につきましては、全面的に皆様をお願いしております。最近のトピックス・重大ニュースとしましては、東宮駐輦記移設でございます。これは、風前の灯であった石碑を皆様の熱意によりまして、新たな命を吹き込んでいただきまして、今は前田公園の一番良い場所に鎮座しているところでございます。この一連の行動力を見ますと、皆様方の凄さ深さに感銘を受けるしだいでございます。これは、皆様方の日々の研鑽の賜物と思っております。



お聞きしますと、今年8月には、例会の100回目を迎えるということで、記念講演を企画しているということでございますけれども、是非、これからも手稲区のまちづくりにお力添えをいただきたいと思っております。

最後になりますけれども、皆様方のご健勝、ご多幸をお祈りいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日はお呼びいただきまして本当にありがとうございます。

# 分科会報告

## \*\* 開拓史研究部 \*\*

総会でお知らせしましたが「開拓研究部」を立ち上げました。「文芸サークル」の仲間と一緒に6月より始めます。内容は「北海道の開拓史」～始め開拓に関係した作品（小説等）を紹介し、会員間で話をしながら、進めたい。なお、この会は従来の「開拓の村・記念館」グループを踏襲したものです。

会場：富丘西宮の沢会館（富丘2条2丁目 TEL. 685-4745）

日時：隔月（偶数月）第3水曜日午後1時30分～4時頃

会費：会場費を出席者で分担（およそ300円）

会員：現在は「文芸サークル」会員が主になっておりますが、関心あるかたのご加入をお願いします。

代表：濱埜静子、村元健治

6月の予定：第1回目の例会です。「北海道開拓の概要」というテーマで、

北の大地／アイヌ文化の成立／蝦夷地のころ／近代のはじまり／開けゆく大地／  
不況から戦争へ／戦後の北海道／新しい北海道  
について話し合う予定であります。

また、今後の活動について皆さんのご意見を伺いたいと考えております。

## \*\* 文芸サークル \*\*

1 昨年の2月に『手稲ふるさと文芸』を探る会」という名称で発足した分科会ですが、呼びやすいように「文芸サークル」と呼称を改めて活動していきます。

上記、「開拓史研究部」の発足にともないまして、当部会の例会を隔月に行うことにしました。したがって、研修予定が、総会で報告したものとは変わって、次のように読書会を進めたいと考えております。

5月：三浦綾子著「母」

7月：堀辰雄著「風立ちぬ」（あわせて「少年よ大志を抱け」のビデオ鑑賞）

9月：田中和夫著「残響」

11月：映画「風立ちぬ」を主題として、堀越二郎と堀辰雄の研究

1月：懇話会

3月：映画鑑賞「風立ちぬ」

皆様ご承知のとおり、茂内会長の収集資料の豊富なものには驚きです。私たちの「文芸サークル」に関するものもたくさんありまして、いま、当会に関心が高まっている「有島武郎」についてのスクラップブックを数冊見せていただきました。そこで、そのスクラップブックを中心にした検討会をしようとして取り組んでいるところですが、その一環として『茂内スクラップ集 有島武郎編』を編集中です。11月を目途に小冊子を作る予定で作業を進めているところです。

### 手 郷 研 ク イ ス

昨年の東宮駐輦記碑の移設は、私たちの会にとっては、大行事でした。さて、その碑が設置された公園は、どこの公園ですか？

A：前田西公園

B：前田公園

C：前田森林公園

# 会員の広場

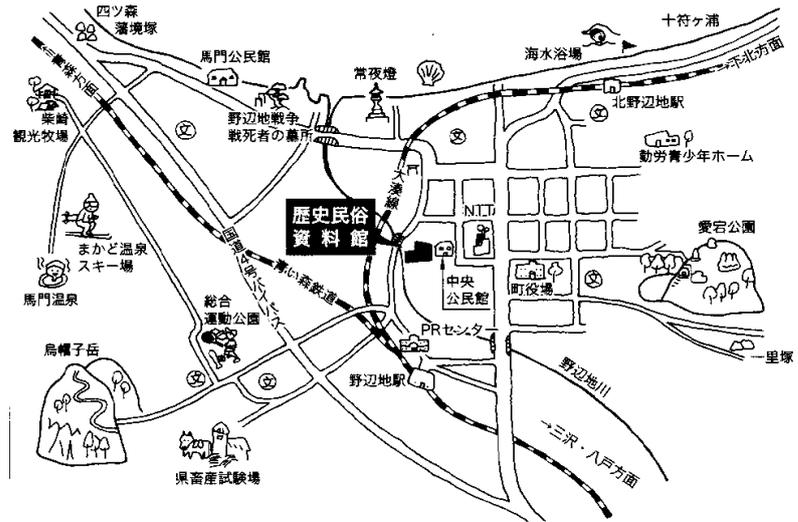
## 『東北、野辺地から見る北海道人』

曙 茂内義雄



この三月末、二泊三日浅虫温泉に宿をとり、青い森鉄道で野辺地探索を試みた。予備知識もなく「歴史民俗資料館」館長さんより直々の解説を頂いた。この地が歴史的因縁めく南部領と津軽領との境界である。昔、南部氏から津軽氏が独立した。幕末の戊辰戦争で南部は幕府軍、弘前は新政府と敵味方に分かれ、この境で、野辺地戦争がおきた。箱館戦争開始数日前のこと、明治の御世に入り、諸々の変遷で青森県誕生を迎えた。資料館への道すがら運転手さんが曰く。「野辺地には小さな城（代官所）もあり、教育も盛んだった。弘前にもっていかれた。」短い一言に、県の東と西とで意識の違いが、今もあるのだろうかとしばし考えさせられた。

北海道の移住民も内地での雑多なじがらみを背負って続々ときた。津軽の海を渡ると過去のわだかまりも失し、開拓という一点に立ち向かうしかなかった。明治・大正・昭和へと代を重ねる中、ある会合で「おれとあんたはかたきだ。」と笑い合う大らかな北海道人もあれ、どこの家の自分史をひも解いても先祖の国元が見えて来る。因みに、青森から一列車先の秋田が茂内の国元である。新幹線工事を横目に、北へ帰る感傷の車中でした。



【参考書】資料館発行パンフ冊子等

「北海道を探る 18、20」

..... ◆ .....

## 会報増ページ

この会報を、今号より2ページ増やすことになりました。1・2ページは、今まで同様、例会報告です。3ページ目は小グループの活動報告、4ページ目は会員の皆様の投稿記事を書きたいと考えております。小グループの活動報告は、既に活発な活動をしている分科会もありますが、これから発足するグループも、是非活動状況を寄稿ください。4ページ目は、会員のかたの「つぶやき」ページにしたいと思います。思いのままに自由に500字程度でつぶやいていただきたいと思います。文章でなくてもよいかもしれませんが、絵心のあるかたはイラストとか……。皆様とともに魅力ある会報にしたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。